

がん診療連携拠点病院 院内がん登録

2011年3年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録分析室

平成30年9月
国立がん研究センター がん対策情報センター

がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2011 年 3 年生存率集計の公表について

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院のデータを収集し院内がん登録全国集計報告書として我が国全体としての診療実態把握に努めております。また、院内がん情報をもととした生存率に関する資料として、これまで 2007 年診断例と 2008 年診断例について 5 年生存率集計報告書を公表致しました。

多くのがんでは、5 年後の生存状況が一つの治癒の目安としてこれまで用いられており、診断から 5 年経った時点での生存率をこれまで報告してまいりましたが、平成 29 年 10 月に閣議決定された第 3 期がん対策推進基本計画においては、いわゆる難治性がんの患者さんへの有効な診断・治療法の開発が課題とされていることから、より早い段階での生存率をタイムリーに観察していくことの必要性も増しています。そこで、これまでの 5 年生存率に加えて、この度がん診療連携拠点病院等から 2011 年診断例の 3 年予後情報を収集し、がん診療連携拠点病院院内がん登録 2011 年 3 年生存率集計報告書としてまとめさせていただきました。

本報告書では、膵臓がんを含め 11 部位のがんについて、データ提出の協力が得られかつ生存状況把握割合について一定の精度を満たしたがん診療連携拠点病院全体のデータを用い、がん診療連携拠点病院全体での病期、観血的治療の実施別に生存率を推定した結果をまとめております。本報告書公表を契機として、難治性がんの有効な診断・治療方法の議論が高まり対策が進むことを期待致します。

平成 30 年 8 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、がん診療連携拠点病院 2011 年全国集計の結果を踏まえて、2011 年に診断された例の 3 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られているため、また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る等、生存率の結果の解釈には留意する必要がある。

1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く産出されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がん(成人病)センター協議会(全がん協)の集計方法を踏まえて、生存状況把握割合が¹⁾90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合をめざすべきであると考えられる。

2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外

の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうかを判定できなければならない。そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性・年齢・診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目目されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がん(成人病)センター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した

4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全がん協の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院に限ってのデータであることに留意する必要がある。更に、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術されたか、されなかったか)、⑤組織型(肺がんの場合)などを参考資料として併記して示している。

1) 全がん協調査などでは、消息判明率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子
2001年9月、大阪府立成人病センター調査部
がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、
癌の臨床 第46巻第10号、2000年9月、篠原出版新社

目 次

がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2011 年 3 年生存率集計の公表について	2
生存率について.....	3
I 2011 年 3 年生存率集計 調査方法	7
1. 収集の対象と方法	7
(1) 収集の対象	7
(2) 収集方法	7
(3) 収集項目と定義	7
2. 集計の対象と集計方法	8
(1) 集計の対象	8
(2) 集計の手順	8
(2) 集計項目の定義	9
(3) 集計方法	10
(4) 公表の対象	10
II 2011 年 3 年生存率集計 結果概要	13
1. 調査参加施設と登録数	13
2. 集計対象	13
3. 相対生存率集計対象者	13
III 2011 年 3 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>	22
1. 全がん	22
2. 胃(C16)	25
3. 大腸(C18-20)	27
4. 肝(C22)	29
5. 肺(C33-34)	31
6. 女性乳房(C50)	33
7. 食道(C15)	34
8. 膵臓(C25)	36
9. 子宮頸部(C53)	38
10. 子宮体部(C54)	39
11. 前立腺(C61)	40
12. 膀胱(C67)	41
付表(2011 年 3 年生存率集計).....	43
1. 集計対象施設一覧	

I 2011 年 3 年生存率集計 調査方法

1. 収集の対象と方法

(1) 収集の対象

本集計では、平成 28 年 7 月 20 日時点のがん診療連携拠点病院 427 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2011 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる全国のがん診療連携拠点病院に、「予後情報付集計」の名称で、2011 年 3 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 23(2011)年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者*である。これら対象例の 3 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。また、2011 年診断例のデータについては、平成 28 年の院内がん登録 2011 年予後情報付集計の際に提出されたデータを用いた。

* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数のがん診療連携拠点病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

(2) 収集方法

平成 28 年 7 月 20 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 28 年 7 月 25 日から 8 月 12 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を

実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供及び従来型の光学メディア記録の形でのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としない。

(3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 3 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日があれば死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間 (日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2011 年全国集計報告書を参照いただきたい。

i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設に受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

ii. 症例区分

症例区分は生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施

行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

iii. 臨床病期

治療前ステージ

UICC (International Union Against Cancer) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままで登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2011年登録対象はUICC TNM 第6版準拠で登録されている。

iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法(鎮痛剤、制吐剤)などは含まない。また、通常静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法(TACE)に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

⑤ 外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果を記載する。つまり、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

2. 集計の対象と集計方法

(1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2011年に診断された例で次のiからiiiを満たす例を集計対象とした。

i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

ii. 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位(悪性新生物<腫瘍>)」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。

iii. 年齢

診断時の年齢が0から99歳までの例を集計対象とした。

(2) 集計の手順

① 集計対象例の選定

提出されたデータから上記のiからiiiに該当する例を抽出した。

i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表1-1 集計用診断日の決定のルール、及び表1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、

「項目：集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が2, 3であった例を集計対象とした。

ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目：330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第5桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0: 良性」又は「1: 良性又は悪性の別不詳」であったも集計対象に含めた。

iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月>=生年月日の月

⇒診断年月の年-生年

診断年月の月<生年月日の月

⇒診断年月の年-生年-1

上記で求めた年齢が0~99歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の⑦~⑨に該当する場合は集計対象から除外した。

⑦性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目：性別が9)であった者を除外した。

⑧追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目 660：予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

⑨UICC TNM 分類総合ステージが0期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要な要因である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病理学的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとしてUICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外はUICC TNM 分類治療前ステージをUICC

TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが0期であった場合は、集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2011年診断例については、品質管理において、登録された追跡期間の確認を行っている。

③ 集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。3年生存率を計算する場合には、対象者全員の3年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がん(成人病)センター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。その中で、がんの生存率は生存状況把握割合を100%に近づけるほど、真の値に近づくとされ、概ね95%以上の生存状況把握割合を維持する必要があるとされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がん(成人病)センター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例の生存状況把握割合が90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が3年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合 = (1 - (打ち切り例数) / 集計対象例数) × 100

(2) 集計項目の定義

● 部位区分

表1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

● 臨床病期

UICC TNM 分類総合ステージ

2011年診断例では、UICC TNM 分類第6版に準拠してUICC TNM 分類の治療前及び術後病理学的ステージが登録されており、第6版では、癌(Carcinoma)のみが分類の対象である(肝臓については肝細胞癌、肝内胆管癌に適用)。

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されているTNM情報からみてステージがUICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の

組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149,
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,
8020-8022, 8050, 8000-8005
但し、前立腺は 8120-8131 を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

● 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

(3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、3 年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が3年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、3 年後の生存状況=死亡(1)とした。

生存率は、カプランマイヤー法を用いた実測生存率

と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センターにおいて作成されたコホート生存率表(2014 年版)を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

(4) 公表の対象

平成 29 年度第 1 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が 30 例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が 30 例未満の場合は、3 年生存率を公表しないこととする。なお、各集計表において、集計値が 10 以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、値を伏せて-(ハイフン)で表記した。

なお、都道府県別生存率については、当該都道府県で集計対象が 1 施設となる場合は表示していない。

参考資料

1)全国がん(成人病)センター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1: 診断のみ	診断日2	
2: 自施設診断自施設治療	診断日2	
3: 他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5: 剖検	診断日2	死亡日
8: その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2011 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1: 初発	1: 自施設診断	1: 自施設で治療	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	3: 自施設で経過観察	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	4: 他施設へ紹介	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	8: 来院中断	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	9: その他	1: 診断のみ
1: 初発	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	9: その他	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	9: その他	8: その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

Ⅱ 2011年3年生存率集計 結果概要

1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した427施設のうち、330施設から2011年3年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率77.3%)。表2-1に全登録数と集計対象を示す。

2. 集計対象

(1) 集計の対象

① 集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分2)」が305,703例(60.9%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分3)」が102,402例(20.4%)であり、全登録数の81.3%を占めた。施設の全登録数に占める自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療の登録割合は平均82.1%で37.4~98.5%と幅があった。

ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分2,3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)は、360,464例(88.3%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、367,464例(90.0%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100歳以上が84例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70歳代が31.7%と最も多く、次いで60歳代が28.8%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明若干名及びUICC TNM分類総合ステージ0期144例を集計対象から除外した。

② 追跡期間(日数)の確認

2011年3年予後情報付データ収集では、品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象から除外した。

(2) 生存状況把握割合

各施設における症例区分2又は3、及び悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)の全登録数に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、11.1%で、最も高かった施設は100.0%であった。提出されたデータ全体でみると生存状況把握割合は94.0%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図2-1に示した。以降の集計結果では、生存状況把握割合が90%以上であった268施設における登録例を集計対象とした。

3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が90%以上であった268施設において症例区分2,3かつ新生物<腫瘍>の性状コードが3(悪性新生物<腫瘍>)と登録されていたのは、300,805例で、脳の腫瘍性疾患の良性、良性又は悪性の別不詳を含めると306,567例であった。そのうち、UICC TNM分類治療前ステージが0期、性別不詳、追跡終了日不明例114例を除く306,381例を集計対象とした。

参考資料

1) 国立がん研究センターがん対策情報センター編: 全国がん罹患モニタリング集計 2009年罹患数・率報告(2014年3月)

表 2-1 全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	62 施設	(%)	268 施設	(%)	330 施設	(%)
全登録数	83,211	100.0	418,651	100.0	501,862	100.0
症例区分別登録数						
1. 診断のみ	4,445	5.3	21,178	5.1	25,623	5.1
2. 自施設診断・自施設初回治療	50,552	60.8	255,151	60.9	305,703	60.9
3. 他施設診断・自施設初回治療	17,609	21.2	84,793	20.3	102,402	20.4
4. 初回治療開始後・再発	8,579	10.3	42,521	10.2	51,100	10.2
5. 剖検	27	0.0	210	0.1	237	0.0
6. 不明・その他	1,999	2.4	14,798	3.5	16,797	3.3
症例区分(2, 3)(再掲)	68,161	81.9	339,944	81.2	408,105	81.3
症例区分 2, 3のうち						
良性	1,044	1.5	4,864	1.4	5,908	1.4
良性又は悪性の別不詳	203	0.3	927	0.3	1,130	0.3
上皮内癌	7,255	10.6	33,348	9.8	40,603	9.9
悪性新生物<腫瘍>	59,659	87.5	300,805	88.5	360,464	88.3
集計対象腫瘍*	60,897	89.3	306,567	90.2	367,464	90.0
症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち(年齢不詳除く)						
年齢 0~14 歳	285	0.5	1,022	0.3	1,307	0.4
15~39 歳	1,992	3.3	10,354	3.4	12,346	3.4
40 歳代	3,662	6.0	18,601	6.1	22,263	6.1
50 歳代	7,500	12.3	38,858	12.7	46,358	12.6
60 歳代	17,438	28.6	88,226	28.8	105,664	28.8
70 歳代	19,486	32.0	96,889	31.6	116,375	31.7
80-99 歳	10,517	17.3	52,545	17.1	63,062	17.2
100 歳以上	16	0.0	68	0.0	84	0.0
0~99 歳(再掲)	60,880	100.0	306,495	100.0	367,375	100.0
除外対象	30	0.0	114	0.0	144	0.0
性別不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
追跡終了日不明	20	7.0	70	6.8	90	6.9
総合ステージ 0 期	10	3.5	44	4.3	54	4.1
集計対象例	60,850		306,381		367,231	

*症例区分2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2 調査参加 330 施設的全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

* 生存率集計では、生存率の過大評価を避けるため生存状況把握割合が 90%以上を集計対象とする
(都道府県拠点病院★、国立がん研究センター★★、地域がん診療病院○、本調査時点)

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療(症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療(症 例区分 3)	自施設 治療 (症例 区分 2, 3) 登録割 合	
総数			268	501,862	305,703	102,402	81.3
北海道	独) 国立病院機構北海道がんセンター	対象	2253	999	606	71.2	
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	対象	1399	912	225	81.3	
	王子総合病院	対象	937	732	86	87.3	
	市立札幌病院		1132	816	189	88.8	
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	対象	1480	1140	178	89.1	
	北見赤十字病院	対象	1351	816	254	79.2	
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	対象	596	326	40	61.4	
	函館厚生院 函館五稜郭病院	対象	1444	1145	161	90.4	
	札幌医科大学附属病院		2148	1089	510	74.4	
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院		1356	973	235	89.1	
	医療法人手稲溪仁会病院	対象	1930	1251	300	80.4	
	旭川医科大学病院		1723	920	457	79.9	
	独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院	対象	693	557	107	95.8	
	KKR 札幌医療センター		1029	745	81	80.3	
青森県	青森県立中央病院	対象	1809	1030	393	78.7	
	八戸市立市民病院	対象	1317	916	239	87.7	
	三沢市立三沢病院		446	272	59	74.2	
岩手県	岩手県立中央病院	対象	1772	1363	275	92.4	
	岩手県立二戸病院	対象	367	216	58	74.7	
	岩手医科大学附属病院	対象	2567	1223	878	81.8	
	岩手県立中部病院	対象	1129	704	223	82.1	
	岩手県立磐井病院		680	380	168	80.6	
	岩手県立宮古病院		468	296	70	78.2	
	岩手県立胆沢病院	対象	730	571	99	91.8	
	岩手県立久慈病院	対象	415	311	35	83.4	
	岩手県立釜石病院	対象	277	119	30	53.8	
宮城県	東北大学病院	対象	3122	1290	771	66.0	
	宮城県立がんセンター	対象	1815	988	402	76.6	
	石巻赤十字病院	対象	1478	781	152	63.1	
	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	対象	1418	1018	252	89.6	
	大崎市民病院	対象	1419	1133	173	92.0	
	独立行政法人労働者健康安全機構東北労災病院	対象	817	551	148	85.6	
秋田県	秋田大学医学部附属病院	対象	1702	788	573	80.0	
	JA 秋田厚生連 由利組合総合病院	対象	632	464	84	86.7	
	大曲厚生医療センター	対象	677	506	101	89.7	
	秋田県厚生連平鹿総合病院	対象	813	665	100	94.1	
	秋田厚生連 能代厚生医療センター		585	435	77	87.5	
	秋田赤十字病院	対象	1174	904	189	93.1	
	大館市立総合病院	対象	606	433	119	91.1	
	秋田県厚生農業協同組合連合会秋田厚生医療センター	対象	971	684	157	86.6	
山形県	山形県立中央病院		1762	1167	399	88.9	
	山形大学医学部附属病院	対象	1715	864	442	76.2	
	山形市立病院済生館	対象	987	710	107	82.8	
	置賜広域病院組合 公立置賜総合病院	対象	881	555	169	82.2	
	日本海総合病院	対象	1692	1267	319	93.7	
福島県	一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院		636	371	126	78.1	
	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	対象	1946	849	451	66.8	
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	対象	1535	1020	268	83.9	
	竹田総合病院	対象	1320	803	279	82.0	
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	対象	1878	1069	370	76.6	

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	一般財団法人温知会 会津中央病院	対象	670	504	81	87.3
茨城県	茨城県立中央病院	対象	1577	1045	278	83.9
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター	対象	931	698	96	85.3
	茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院 土浦協同病 院・茨城県地域がんセンター	対象	1701	1259	227	87.4
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセ ンター		1319	1050	164	92.0
	友愛記念病院	対象	848	489	80	67.1
	茨城県厚生農業協同組合連合会茨城西南医療センター病 院	対象	430	276	32	71.6
	筑波大学附属病院	対象	2285	1213	487	74.4
	株式会社日立製作所ひたちなか総合病院	対象	598	458	57	86.1
栃木県	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	対象	2076	1052	586	78.9
	自治医科大学附属病院	対象	3263	1978	775	84.4
	栃木県済生会宇都宮病院	対象	1695	1299	193	88.0
	獨協医科大学病院	対象	2541	1684	513	86.5
	那須赤十字病院	対象	674	513	46	82.9
群馬県	群馬県立がんセンター	対象	2110	978	742	81.5
	国立病院機構沼田病院	対象	261	185	37	85.1
	独立行政法人国立病院機構渋川医療センター	対象	558	332	109	79.0
	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター	対象	1145	817	157	85.1
	公立富岡総合病院	対象	896	605	118	80.7
	桐生厚生総合病院	対象	789	661	63	91.8
	前橋赤十字病院	対象	1253	920	194	88.9
埼玉県	さいたま赤十字病院		1293	965	178	88.4
	埼玉県立がんセンター	対象	3596	1723	1115	78.9
	深谷赤十字病院		563	448	99	97.2
	春日部市立医療センター	対象	812	484	100	71.9
	埼玉医科大学総合医療センター	対象	2407	1508	326	76.2
	獨協医科大学越谷病院	対象	1960	1178	358	78.4
	川口市立医療センター	対象	1172	761	155	78.2
	埼玉医科大学国際医療センター		3980	1946	1384	83.7
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合 病院	対象	1138	759	126	77.8
千葉県	国立がん研究センター東病院	対象	4924	1979	1503	70.7
	国保旭中央病院	対象	2383	1896	177	87.0
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	対象	2696	1734	485	82.3
	国保直営総合病院 君津中央病院	対象	1348	969	145	82.6
	独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院	対象	941	726	146	92.7
	船橋市立医療センター	対象	1318	804	270	81.5
	千葉大学医学部附属病院		2912	1482	805	78.5
	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	対象	893	595	109	78.8
	東京歯科大学市川総合病院	対象	1348	901	152	78.1
	順天堂大学医学部附属浦安病院	対象	1501	1081	173	83.5
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	対象	1466	1108	205	89.6
	国保松戸市立病院	対象	1272	686	95	61.4
	日本医科大学千葉北総病院	対象	962	717	107	85.7
東京都	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	対象	6527	2325	2030	66.7
	東京都立駒込病院	対象	3960	2000	799	70.7
	青梅市立総合病院	対象	1046	799	95	85.5
	N T T東日本関東病院	対象	2086	1291	454	83.7
	日本赤十字社医療センター	対象	2004	844	314	57.8
	日本大学医学部附属板橋病院	対象	2272	1391	368	77.4
	武蔵野赤十字病院	対象	1998	1315	311	81.4
	がん研有明病院	対象	8299	3215	2419	67.9

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	日本医科大学付属病院	対象	2481	1513	586	84.6
	聖路加国際病院	対象	2211	1121	469	71.9
	帝京大学医学部附属病院	対象	2066	1158	384	74.6
	杏林大学医学部附属病院	対象	2249	1739	396	94.9
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	対象	3562	1971	940	81.7
	昭和大学病院	対象	2271	1358	460	80.1
	慶應義塾大学病院	対象	3781	1891	752	69.9
	東京都立多摩総合医療センター	対象	2511	1443	667	84.0
	公立昭和病院	対象	1459	1050	220	87.0
	虎の門病院	対象	2962	1536	924	83.1
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター		1862	1298	311	86.4
	東京医科歯科大学医学部附属病院	対象	2433	1267	689	80.4
	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター		911	627	143	84.5
神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	対象	2919	1381	823	75.5
	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院	対象	2179	1578	314	86.8
	横浜市民病院	対象	1756	1175	302	84.1
	相模原協同病院	対象	1124	710	95	71.6
	公立大学横浜市立大学附属病院	対象	2242	1021	688	76.2
	聖マリアンナ医科大学病院	対象	2539	1515	686	86.7
	東海大学医学部附属病院	対象	3478	2049	770	81.1
	藤沢市民病院		1306	900	222	85.9
	北里大学病院	対象	1950	1244	553	92.2
	横浜労災病院		1764	1137	208	76.2
	昭和大学横浜市北部病院		2139	1244	500	81.5
	横浜市民みなと赤十字病院		1052	656	170	78.5
新潟県	新潟県立がんセンター新潟病院	対象	2966	1859	940	94.4
	新潟県立中央病院	対象	1356	937	322	92.8
	新潟市民病院	対象	1636	1186	341	93.3
	長岡赤十字病院	対象	1575	1225	231	92.4
	新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院	対象	1623	1221	350	96.8
	新潟大学医歯学総合病院	対象	2149	1074	667	81.0
	県立新発田病院	対象	1235	792	289	87.5
	独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院	対象	427	356	48	94.6
富山県	富山県立中央病院	対象	2243	1500	441	86.5
	黒部市民病院	対象	638	494	83	90.4
	労働者健康安全機構富山労災病院		199	158	10	84.4
	富山大学附属病院	対象	1098	656	252	82.7
	富山県厚生連高岡病院	対象	1168	895	137	88.4
	高岡市民病院	対象	670	510	67	86.1
	市立砺波総合病院	対象	641	491	49	84.2
石川県	国立大学法人金沢大学附属病院		2024	1007	471	73.0
	金沢医療センター		742	532	87	83.4
	石川県立中央病院		1636	1030	505	93.8
	金沢医科大学病院	対象	1116	767	163	83.3
	小松市民病院	対象	721	497	77	79.6
福井県	福井県立病院	対象	1587	1053	268	83.2
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院	対象	1427	1021	232	87.8
	福井赤十字病院	対象	1112	932	97	92.5
	福井大学医学部附属病院	対象	1138	708	311	89.5
山梨県	山梨県立中央病院		1812	1176	315	82.3
	山梨大学医学部附属病院	対象	1663	999	349	81.1
長野県	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター	対象	1763	1210	428	92.9
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	対象	2046	950	583	74.9

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	諏訪赤十字病院	対象	1051	739	144	84.0
	飯田市立病院	対象	939	640	135	82.5
	長野市民病院	対象	1452	986	333	90.8
	長野赤十字病院	対象	1531	975	275	81.6
	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	対象	1355	942	181	82.9
	伊那中央病院	対象	864	571	165	85.2
岐阜県	岐阜市民病院		1212	904	123	84.7
	国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院		1963	1048	597	83.8
	高山赤十字病院	対象	632	468	28	78.5
	岐阜県総合医療センター		1539	1110	236	87.5
	岐阜県立多治見病院	対象	1230	836	205	84.6
	大垣市民病院	対象	1986	1714	211	96.9
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	対象	1149	617	196	70.8
静岡県	静岡県立静岡がんセンター	対象	6174	2523	1753	69.3
	静岡県立総合病院		2480	1640	581	89.6
	社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷三方原病院	対象	1401	853	192	74.6
	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	対象	1950	1308	389	87.0
	順天堂大学医学部附属静岡病院	対象	1397	969	195	83.3
	静岡市立静岡病院	対象	1200	978	66	87.0
	藤枝市立総合病院	対象	1105	861	91	86.2
	浜松医科大学医学部附属病院	対象	1628	885	394	78.6
	浜松医療センター	対象	1202	828	153	81.6
	磐田市立総合病院	対象	1322	890	162	79.6
	富士市立中央病院		762	433	66	65.5
愛知県	愛知県がんセンター中央病院	対象	3020	1124	1481	86.3
	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	対象	1894	1379	205	83.6
	海南病院	対象	1179	883	128	85.8
	国立病院機構 名古屋医療センター	対象	1686	1160	187	79.9
	小牧市民病院	対象	1798	1413	167	87.9
	豊橋市民病院	対象	2068	1461	330	86.6
	名古屋大学医学部附属病院		2537	1371	763	84.1
	一宮市立市民病院	対象	1315	1113	182	98.5
	公立陶生病院	対象	1194	941	114	88.4
	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	対象	1413	1072	156	86.9
	名古屋第一赤十字病院	対象	2144	1484	324	84.3
	名古屋第二赤十字病院	対象	2198	1475	295	80.5
	藤田保健衛生大学病院	対象	2567	1384	860	87.4
三重県	日本赤十字社 伊勢赤十字病院		1544	1086	250	86.5
	松阪中央総合病院		730	565	46	83.7
	国立大学法人 三重大学医学部附属病院		1785	1044	404	81.1
	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院		1153	910	91	86.8
滋賀県	市立長浜病院	対象	690	618	31	94.1
	滋賀県立成人病センター	対象	1407	800	222	72.6
	大津赤十字病院		1368	1035	172	88.2
	彦根市立病院	対象	613	414	54	76.3
	滋賀医科大学医学部附属病院	対象	1390	762	376	81.9
京都府	京都市立病院	対象	1275	779	133	71.5
	京都第一赤十字病院	対象	1358	1020	216	91.0
	京都第二赤十字病院	対象	1540	1214	157	89.0
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	対象	1637	1082	301	84.5
	市立福知山市民病院	対象	696	466	87	79.5
	社会医療法人岡本病院（財団）京都岡本記念病院	対象	711	234	32	37.4
大阪府	市立岸和田市民病院	対象	1207	869	141	83.7
	東大阪市立総合病院	対象	1043	805	132	89.8
	市立豊中病院	対象	1881	1384	297	89.4

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
大阪府	大阪府立成人病センター	対象	3213	1510	1274	86.6
	大阪市立総合医療センター		2875	1625	574	76.5
	大阪赤十字病院	対象	2407	1784	301	86.6
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター		855	535	162	81.5
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院		1663	1133	284	85.2
	大阪医科大学附属病院		2242	1191	745	86.4
	公立大学法人大阪市立大学医学部附属病院		3316	1649	732	71.8
	八尾市立病院	対象	865	647	163	93.6
兵庫県	兵庫県立がんセンター	対象	3632	1607	1304	80.1
	国立大学法人 神戸大学医学部附属病院	対象	3349	1455	862	69.2
	神戸市立医療センター中央市民病院	対象	2106	1167	464	77.4
	独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	対象	1852	1049	340	75.0
	公立学校共済組合近畿中央病院	対象	769	592	122	92.8
	赤穂市民病院	対象	537	458	30	90.9
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	対象	934	711	125	89.5
	兵庫県立淡路医療センター	対象	635	454	75	83.3
	兵庫医科大学病院	対象	2637	1311	631	73.6
	兵庫県立柏原病院	対象	236	98	45	60.6
奈良県	奈良県立医科大学附属病院	対象	2459	1373	582	79.5
	奈良県総合医療センター	対象	894	581	198	87.1
	天理よろづ相談所病院	対象	2059	1721	263	96.4
和歌山県	紀南病院	対象	631	410	95	80.0
	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター		615	364	154	84.2
	日本赤十字社和歌山医療センター	対象	1720	1382	223	93.3
	橋本市民病院		478	293	52	72.2
	公立那賀病院		624	413	74	78.0
鳥取県	鳥取県立厚生病院	対象	565	409	53	81.8
	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	対象	513	349	63	80.3
	鳥取県立中央病院	対象	790	700	48	94.7
	鳥取大学医学部附属病院	対象	1578	1028	333	86.2
島根県	松江赤十字病院	対象	1186	992	120	93.8
	島根大学医学部附属病院	対象	1196	664	311	81.5
	島根県立中央病院	対象	1262	973	134	87.7
	浜田医療センター	対象	646	484	85	88.1
岡山県	岡山済生会総合病院	対象	1694	1027	318	79.4
	総合病院岡山赤十字病院	対象	910	659	112	84.7
	岡山大学病院	対象	2331	1004	775	76.3
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	対象	3166	2274	472	86.7
	津山中央病院		1324	806	136	71.1
	岡山医療センター	対象	1124	786	143	82.7
広島県	県立広島病院	対象	1565	894	244	72.7
	広島赤十字・原爆病院	対象	1329	952	190	85.9
	呉医療センター	対象	1622	949	253	74.1
	独立行政法人国立病院機構東広島医療センター	対象	774	481	92	74.0
	福山市民病院	対象	1576	877	340	77.2
	市立三次中央病院		670	499	95	88.7
山口県	山口県立総合医療センター	対象	726	536	112	89.3
	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター	対象	991	704	118	82.9
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	対象	676	476	64	79.9
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	対象	1382	996	187	85.6
	山口大学医学部附属病院		1725	859	583	83.6
徳島県	徳島県立中央病院	対象	962	722	119	87.4
	徳島大学病院	対象	1861	906	586	80.2

都道府県	施設名称	集計 対象 の有 無	全登録 数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3） 登録割 合
	徳島赤十字病院		1076	702	203	84.1
香川県	香川県立中央病院	対象	1473	926	363	87.5
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	対象	1364	982	208	87.2
	三豊総合病院	対象	1004	717	114	82.8
	高松赤十字病院	対象	1207	791	223	84.0
	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	対象	1413	720	375	77.5
愛媛県	市立宇和島病院	対象	1230	826	183	82.0
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	対象	2957	1551	866	81.7
	住友別子病院	対象	566	398	50	79.2
	愛媛大学医学部附属病院	対象	1723	841	467	75.9
	愛媛県立中央病院	対象	1803	1399	275	92.8
	松山赤十字病院	対象	1548	1166	145	84.7
	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院		538	261	115	69.9
高知県	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	対象	1570	927	429	86.4
	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	対象	1353	902	403	96.5
福岡県	久留米大学病院	対象	2866	1504	654	75.3
	公立八女総合病院	対象	624	460	84	87.2
	地方独立行政法人 大牟田市立病院	対象	698	434	148	83.4
	社会保険田川病院	対象	656	458	64	79.6
	飯塚病院	対象	1951	1396	295	86.7
	福岡東医療センター	対象	550	404	65	85.3
	北九州市立医療センター	対象	2406	1264	628	78.6
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	対象	2479	1133	657	72.2
	国立大学法人 九州大学病院	対象	3534	1594	924	71.3
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	対象	1969	1274	401	85.1
	福岡県済生会福岡総合病院	対象	1356	761	282	76.9
	福岡大学病院	対象	1822	1021	455	81.0
	聖マリア病院	対象	1145	796	40	73.0
	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院	対象	1873	1215	312	81.5
	産業医科大学病院	対象	1807	1082	383	81.1
佐賀県	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	対象	1106	673	197	78.7
	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院	対象	1998	864	580	72.3
	唐津赤十字病院	対象	702	430	75	71.9
	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	対象	822	517	124	78.0
長崎県	日本赤十字社長崎原爆病院	対象	1023	760	180	91.9
	佐世保市総合医療センター		1424	974	323	91.1
	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター		1561	990	334	84.8
	国立大学法人 長崎大学病院	対象	2491	1177	877	82.5
	長崎県島原病院	対象	667	425	122	82.0
熊本県	熊本大学医学部附属病院	対象	2887	1401	818	76.9
	熊本市立熊本市民病院	対象	1204	769	195	80.1
	独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院	対象	697	453	131	83.8
	人吉医療センター	対象	629	378	65	70.4
	熊本赤十字病院	対象	1480	991	218	81.7
	国立病院機構 熊本医療センター	対象	1523	927	232	76.1
	済生会熊本病院		1733	1010	356	78.8
	荒尾市民病院		435	279	62	78.4
大分県	大分県立病院	対象	1314	892	263	87.9
	大分赤十字病院	対象	712	488	106	83.4
	大分大学医学部附属病院	対象	1561	768	480	79.9
	独立行政法人国立病院機構別府医療センター	対象	739	518	112	85.3
	大分県済生会日田病院	対象	339	181	38	64.6
	中津市立中津市民病院	対象	529	371	106	90.2
宮崎県	宮崎県立宮崎病院	対象	1084	844	168	93.4

都道府県	施設名称	集計対象の有無	全登録数	自施設診断自施設治療(症例区分2)	他施設診断自施設治療(症例区分3)	自施設治療(症例区分2, 3)登録割合
	国立病院機構 都城医療センター	対象	654	398	150	83.8
	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院	対象	1361	724	332	77.6
鹿児島県	国立大学法人 鹿児島大学病院		2123	735	784	71.5
	国立病院機構鹿児島医療センター	対象	781	364	206	73.0
	鹿児島県立薩南病院		173	105	36	81.5
	独立行政法人国立病院機構南九州病院	対象	256	169	49	85.2
	県民健康プラザ 鹿屋医療センター	対象	386	160	124	73.6
	公益財団法人昭和会今給黎総合病院		863	404	191	68.9
	出水郡医師会広域医療センター		369	221	42	71.3
	社会医療法人 博愛会 相良病院		769	557	121	88.2
	沖縄県	地方独立行政法人 那覇市立病院	対象	866	489	140
	沖縄県立中部病院		1022	575	162	72.1
	国立大学法人琉球大学医学部附属病院	対象	1176	526	303	70.5
	沖縄県立宮古病院		186	106	17	66.1

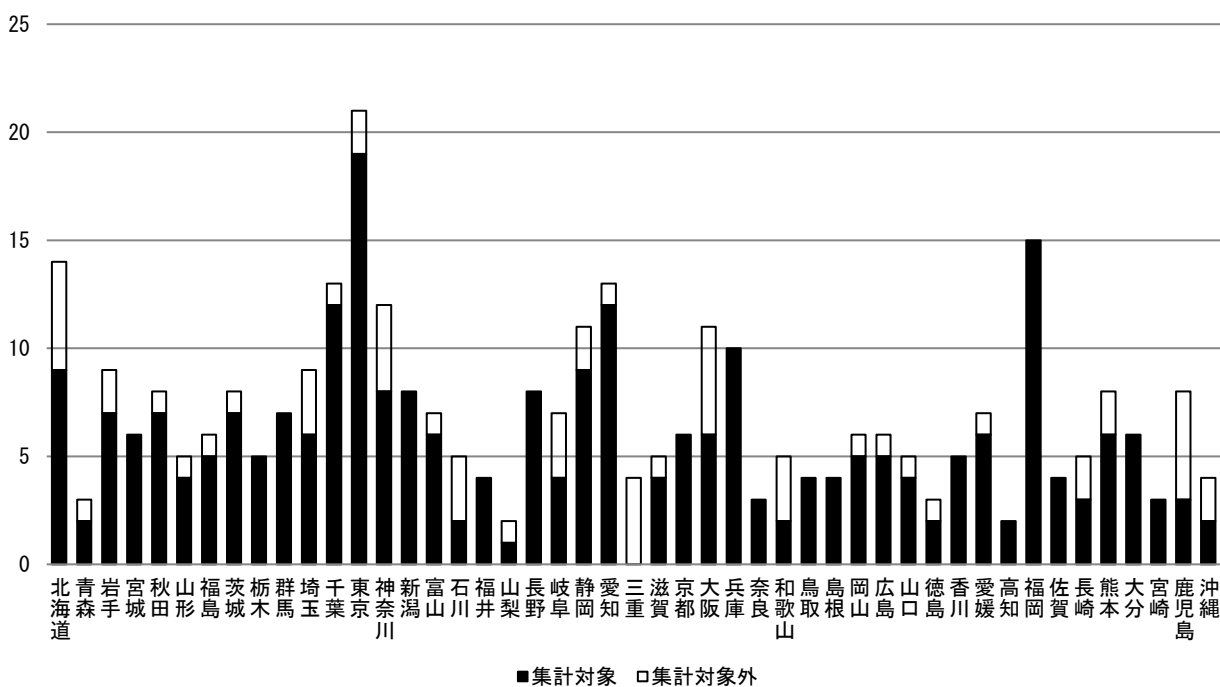


図 2-1 都道府県・施設別生存状況把握割合(330 施設)

Ⅲ 2011年3年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>

1. 全がん

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	418,651	268	339,944	306,567	306,495	114	306,381

(0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録2011年3年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

(1) 生存状況把握割合

対象者は306,381例で、その内3年以内に死亡していた者は101,911例、打ち切りが7,499例であった。全体として、生存状況把握割合は97.6%であった。

(2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表3-1-1に示す。男性が58.3%、女性が41.7%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代、70歳代で全体の半数以上を占めた。約60%の対象者に観血的治療が実施されており、そのうちの約89%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺、大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	178,738	100.0	127,643	100.0	306,381	100.0
年齢						
0-14 歳	562	0.3	460	0.4	1,022	0.3
15-39 歳	3,502	2.0	6,846	5.4	10,348	3.4
40 歳代	5,893	3.3	12,699	9.9	18,592	6.1
50 歳代	19,274	10.8	19,575	15.3	38,849	12.7
60 歳代	55,818	31.2	32,384	25.4	88,202	28.8
70 歳代	63,972	35.8	32,881	25.8	96,853	31.6
80 歳以上	29,717	16.6	22,798	17.9	52,515	17.1
観血的治療						
有	95,961	53.7	86,888	68.1	182,849	59.7
原発巣・治癒切除	84,812	47.5	77,295	60.6	162,107	52.9
原発巣・非治癒切除	7,648	4.3	6,281	4.9	13,929	4.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	3,501	2.0	3,312	2.6	6,813	2.2
無	82,777	46.3	40,755	31.9	123,532	40.3
発見経緯						
がん検診	13,085	7.3	11,822	9.3	24,907	8.1
健康診断・人間ドック	15,682	8.8	7,604	6.0	23,286	7.6
他疾患経過観察中	56,959	31.9	30,435	23.8	87,394	28.5
その他・不明	93,012	52.0	77,782	60.9	170,794	55.7
部位						
口腔咽頭	6,796	3.8	2,608	2.0	9,404	3.1
食道	8,470	4.7	1,403	1.1	9,873	3.2
胃	30,574	17.1	12,762	10.0	43,336	14.1
結腸	12,747	7.1	10,589	8.3	23,336	7.6
直腸	8,463	4.7	4,717	3.7	13,180	4.3
大腸（再掲）	21,210	11.9	15,306	12.0	36,516	11.9
肝臓	9,199	5.1	4,205	3.3	13,404	4.4
胆嚢胆管	3,691	2.1	2,846	2.2	6,537	2.1
膵臓	5,528	3.1	4,492	3.5	10,020	3.3
喉頭	2,542	1.4	197	0.2	2,739	0.9
肺	27,136	15.2	12,059	9.4	39,195	12.8
骨軟部	913	0.5	705	0.6	1,618	0.5
皮膚	3,750	2.1	3,576	2.8	7,326	2.4
乳房	149	0.1	26,516	20.8	26,665	8.7
子宮頸部	-		5,377	4.2	5,377	1.8
子宮体部	-		6,309	4.9	6,309	2.1
子宮	-		24	0.0	24	0.0
卵巣	-		4,067	3.2	4,067	1.3
前立腺	25,780	14.4	-		25,780	8.4
膀胱	4,736	2.6	1,376	1.1	6,112	2.0
腎尿路	6,219	3.5	2,638	2.1	8,857	2.9
脳神経	3,180	1.8	4,297	3.4	7,477	2.4
甲状腺	1,470	0.8	3,858	3.0	5,328	1.7
悪性リンパ腫	6,324	3.5	5,330	4.2	11,654	3.8
多発性骨髄腫	1,310	0.7	1,134	0.9	2,444	0.8
白血病	2,632	1.5	1,858	1.5	4,490	1.5
その他の血液	2,168	1.2	1,277	1.0	3,445	1.1
その他	4,961	2.8	3,423	2.7	8,384	2.7

(3)3 年生存率

表 3-1-2 に、2011 年例における実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別 3 年生存率

	生存率											
	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	62.2	68.2	67.9	68.4	72.1	75.5	75.2	75.7	66.3	71.3	71.1	71.4
年齢												
0-14 歳	86.6	86.6	83.5	89.2	87.7	87.8	84.4	90.5	87.1	87.1	84.9	89.1
15-39 歳	80.9	81.1	79.7	82.4	89.1	89.2	88.4	89.9	86.3	86.5	85.8	87.1
40 歳代	73.8	74.3	73.2	75.4	89.0	89.3	88.7	89.8	84.2	84.6	84.0	85.1
50 歳代	69.6	70.8	70.1	71.5	82.4	83.0	82.5	83.5	76.1	77.0	76.6	77.4
60 歳代	67.1	69.9	69.4	70.3	76.3	77.6	77.1	78.0	70.5	72.7	72.4	73.0
70 歳代	61.7	68.2	67.8	68.6	67.6	70.8	70.3	71.3	63.7	69.1	68.8	69.4
80 歳以上	43.9	59.2	58.4	60.0	48.9	59.2	58.4	60.0	46.1	59.2	58.6	59.8
観血的治療												
有	78.9	85.9	85.6	86.2	86.9	90.5	90.2	90.7	82.7	88.1	87.9	88.3
原発巣・治癒切除	81.8	89.1	88.8	89.4	89.7	93.3	93.1	93.5	85.6	91.1	91.0	91.3
原発巣・非治癒切除	51.2	55.4	54.2	56.7	57.2	59.7	58.4	60.9	53.9	57.4	56.5	58.2
原発巣・治癒/非治癒 の別不詳	69.1	75.1	73.4	76.7	79.2	82.1	80.6	83.5	74.0	78.5	77.4	79.6
無	42.7	47.4	47.0	47.7	40.4	42.9	42.3	43.4	41.9	45.8	45.5	46.2

2. 胃(C16)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2011	48,830	268	43,364	43,348	43,345	-	43,336

(1) 生存状況把握割合

集計対象者は、43,336例で、3年以内に死亡していた者は13,635例、打ち切りが1,120例で、生存状況把握割合は、全体で97.4%であった。

(2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表3-2-1に示す。性別にみると、男性が7割以上を占めた。診断時の年齢は、

70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代・70歳代で全体の約6割以上を占めた。UICC TNM分類総合ステージを見ると、I期が約6割、次いでIV期が2割を占めた。約8割において観血的治療が実施されており、約7割が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約3割であった。

表3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	30,574	100.0	12,762	100.0	43,336	100.0
年齢						
15-39歳	246	0.8	270	2.1	516	1.2
40歳代	766	2.5	539	4.2	1,305	3.0
50歳代	3,177	10.4	1,323	10.4	4,500	10.4
60歳代	9,372	30.7	3,100	24.3	12,472	28.8
70歳代	11,576	37.9	4,351	34.1	15,927	36.8
80歳以上	5,437	17.8	3,179	24.9	8,616	19.9
UICC TNM 分類総合ステージ						
I期	19,772	64.7	7,771	60.9	27,543	63.6
II期	2,165	7.1	943	7.4	3,108	7.2
III期	1,990	6.5	910	7.1	2,900	6.7
IV期	5,991	19.6	2,677	21.0	8,668	20.0
不詳	362	1.2	238	1.9	600	1.4
空欄	294	1.0	223	1.7	517	1.2
観血的治療						
有	24,685	80.7	10,096	79.1	34,781	80.3
原発巣・治癒切除	22,987	75.2	9,388	73.6	32,375	74.7
原発巣・非治癒切除	1,280	4.2	539	4.2	1,819	4.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	418	1.4	169	1.3	587	1.4
無	5,889	19.3	2,666	20.9	8,555	19.7
発見経緯						
がん検診	3,357	11.0	1,263	9.9	4,620	10.7
健康診断・人間ドック	3,755	12.3	1,124	8.8	4,879	11.3
他疾患経過観察中	9,794	32.0	3,649	28.6	13,443	31.0
その他・不明	13,668	44.7	6,726	52.7	20,394	47.1

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3年生存率

男女別に見た3年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向がある。また、観血治療を受けた者では、相対生存率は全体で89.0%であった。

表 3-2-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	67.6	74.5	73.9	75.1	69.4	73.7	72.8	74.5	68.1	74.3	73.8	74.7
年齢												
15-39歳	72.1	72.3	66.2	77.6	67.0	67.1	61.1	72.4	69.4	69.6	65.4	73.4
40歳代	75.0	75.5	72.2	78.4	75.4	75.7	71.8	79.1	75.2	75.6	73.1	77.8
50歳代	75.0	76.3	74.7	77.8	75.7	76.3	73.9	78.6	75.2	76.3	75.0	77.6
60歳代	73.6	76.6	75.6	77.5	76.9	78.2	76.6	79.6	74.4	77.0	76.2	77.8
70歳代	67.3	74.4	73.5	75.4	72.7	76.2	74.8	77.6	68.8	74.9	74.1	75.7
80歳以上	52.0	69.7	67.9	71.5	54.1	64.5	62.3	66.5	52.8	67.7	66.3	69.0
UICC TNM 総合ステージ												
I期	86.7	95.8	95.2	96.3	91.4	97.0	96.3	97.6	88.0	96.1	95.7	96.5
II期	67.1	73.8	71.5	75.9	71.5	76.0	72.8	78.9	68.5	74.4	72.6	76.2
III期	49.3	54.1	51.7	56.5	54.7	57.8	54.3	61.2	51.0	55.3	53.3	57.3
IV期	13.2	14.3	13.4	15.3	13.1	13.7	12.4	15.1	13.1	14.1	13.4	14.9
不詳	12.1	14.5	10.7	18.9	17.0	19.8	14.4	25.8	13.9	16.5	13.3	20.1
観血的治療												
有	80.8	88.8	88.3	89.4	84.7	89.5	88.7	90.2	82.0	89.0	88.6	89.5
原発巣・治癒切除	83.7	92.0	91.4	92.5	88.1	92.9	92.2	93.6	85.0	92.2	91.8	92.7
原発巣・非治癒切除	34.7	38.6	35.7	41.6	29.9	32.0	27.9	36.2	33.3	36.6	34.2	39.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	62.3	68.4	63.1	73.4	73.8	78.3	70.5	84.7	65.6	71.4	67.0	75.4
無	11.6	13.1	12.2	14.1	11.1	12.2	10.9	13.6	11.4	12.8	12.1	13.6

*癌腫のみ対象

3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2011	55,165	268	47,744	36,539	36,535	19	36,516

(1) 生存状況把握割合

集計対象 36,516 例のうち、3 年以内に死亡していた者は 10,026 例、打ち切りが 870 例で、全体として生存状況把握割合は 97.6%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く男性が約 6 割を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代

が多くなっていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに約 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者が観血的治療を受けており、約 78%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 24%、がん検診が約 10%、健康診断・人間ドックが 7~9%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が約 6 割を占め、性別にみると男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	21,210	100.0	15,306	100.0	36,516	100.0
年齢						
0-14歳	0	0.0	-	-	-	-
15-39歳	320	1.5	255	1.7	575	1.6
40歳代	822	3.9	738	4.8	1,560	4.3
50歳代	2,627	12.4	1,949	12.7	4,576	12.5
60歳代	6,834	32.2	3,943	25.8	10,777	29.5
70歳代	7,065	33.3	4,650	30.4	11,715	32.1
80歳以上	3,542	16.7	3,770	24.6	7,312	20.0
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	5,525	26.0	3,564	23.3	9,089	24.9
II 期	5,683	26.8	4,058	26.5	9,741	26.7
III 期	5,152	24.3	4,093	26.7	9,245	25.3
IV 期	4,157	19.6	3,117	20.4	7,274	19.9
不詳	271	1.3	233	1.5	504	1.4
空欄	422	2.0	241	1.6	663	1.8
観血的治療						
有	18,473	87.1	13,297	86.9	31,770	87.0
原発巣・治癒切除	16,651	78.5	11,914	77.8	28,565	78.2
原発巣・非治癒切除	1,446	6.8	1,078	7.0	2,524	6.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	376	1.8	305	2.0	681	1.9
無	2,737	12.9	2,009	13.1	4,746	13.0
発見経緯						
がん検診	2,113	10.0	1,601	10.5	3,714	10.2
健康診断・人間ドック	1,842	8.7	1,060	6.9	2,902	7.9
他疾患経過観察中	5,300	25.0	3,374	22.0	8,674	23.8
その他・不明	11,955	56.4	9,271	60.6	21,226	58.1
部位						
結腸	12,747	60.1	10,589	69.2	23,336	63.9
直腸	8,463	39.9	4,717	30.8	13,180	36.1

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-3-2 に示す。3 年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約 78%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少ないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I 期では約 97%、II 期では約 93%であった。観血的治療を受けたものは、相対生存率は 85%を超えており、原発巣・治癒切除例においては約 91%であった。

表 3-3-2 属性別 3 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	71.7	78.6	77.9	79.2	72.9	77.4	76.7	78.2	72.2	78.1	77.6	78.6
年齢												
15-39 歳	79.7	79.9	74.9	84.0	80.7	80.8	75.4	85.2	80.1	80.3	76.7	83.4
40 歳代	80.0	80.5	77.5	83.1	84.1	84.4	81.5	86.9	81.9	82.4	80.3	84.2
50 歳代	80.0	81.3	79.7	82.9	80.4	81.0	79.2	82.8	80.2	81.2	80.0	82.4
60 歳代	77.6	80.7	79.6	81.7	80.6	81.9	80.6	83.2	78.7	81.1	80.3	81.9
70 歳代	71.3	78.8	77.6	79.9	74.4	77.9	76.5	79.2	72.5	78.4	77.5	79.3
80 歳以上	52.4	70.7	68.5	72.9	56.2	68.1	66.1	70.0	54.3	69.3	67.8	70.8
UICC TNM 総合ステージ												
I 期	88.1	96.1	95.2	97.0	92.5	97.6	96.6	98.5	89.8	96.7	96.0	97.4
II 期	83.5	92.9	91.8	93.9	86.2	92.9	91.7	94.0	84.6	92.9	92.1	93.7
III 期	76.7	83.8	82.5	85.0	78.8	83.5	82.1	84.8	77.6	83.6	82.7	84.5
IV 期	29.3	31.5	30.0	33.0	27.4	28.8	27.1	30.4	28.5	30.3	29.2	31.4
不詳	19.8	23.4	18.0	29.4	22.7	26.2	20.2	32.8	21.1	24.7	20.6	29.1
観血的治療												
有	79.9	87.4	86.8	88.1	81.7	86.5	85.8	87.2	80.7	87.1	86.6	87.5
原発巣・治癒切除	83.4	91.3	90.7	91.9	85.8	90.9	90.2	91.5	84.4	91.1	90.7	91.6
原発巣・非治癒切除	42.8	46.3	43.5	49.1	38.6	40.8	37.7	43.9	41.0	44.0	41.9	46.0
原発巣・治癒/非治癒	69.9	75.6	70.2	80.3	73.2	77.6	71.9	82.5	71.3	76.5	72.7	80.0
癒の別不詳												
無	15.5	17.1	15.7	18.7	14.0	15.3	13.6	17.0	14.8	16.4	15.2	17.5
部位												
結腸	70.3	77.9	77.0	78.8	71.2	76.1	75.2	77.0	70.7	77.1	76.4	77.7
直腸	73.8	79.6	78.5	80.6	76.5	80.5	79.2	81.7	74.8	79.9	79.1	80.7

*癌腫のみ対象

4. 肝(C22)

	集計対象施設 全登録数	集計対象施 設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	17,437	268	13,412	13,412	13,409	-	13,404

(1) 生存状況把握割合

対象者は、13,404 例で、そのうち 3 年以内に死亡していた者は 6,696 例、打ち切りが 321 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.6%であった。

性が 68%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 38%、女性では約 44%を占めた。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 39%、II 期が約 28%、III 期が約 21%となっていた。約 28%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 63%を占めた。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4-1 に示す。性別にみると、男

表 3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	9,199	100.0	4,205	100.0	13,404	100.0
年齢						
0-14 歳	11	0.1	-		20	0.1
15-39 歳	89	1.0	31	0.7	120	0.9
40 歳代	246	2.7	47	1.1	293	2.2
50 歳代	1,115	12.1	235	5.6	1,350	10.1
60 歳代	2,826	30.7	945	22.5	3,771	28.1
70 歳代	3,508	38.1	1,841	43.8	5,349	39.9
80 歳以上	1,404	15.3	1,097	26.1	2,501	18.7
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	3,408	37.0	1,842	43.8	5,250	39.2
II 期	2,590	28.2	1,189	28.3	3,779	28.2
III 期	2,133	23.2	698	16.6	2,831	21.1
IV 期	871	9.5	349	8.3	1,220	9.1
不詳	178	1.9	110	2.6	288	2.1
空欄	19	0.2	17	0.4	36	0.3
取扱い規約治療前ステージ						
I 期	1,668	18.1	1,063	25.3	2,731	20.4
II 期	3,125	34.0	1,474	35.1	4,599	34.3
III 期	2,131	23.2	807	19.2	2,938	21.9
IV 期	1,972	21.4	686	16.3	2,658	19.8
不詳	244	2.7	141	3.4	385	2.9
空欄	58	0.6	34	0.8	92	0.7
観血的治療						
有	2,821	30.7	964	22.9	3,785	28.2
原発巣・治癒切除	2,558	27.8	885	21.0	3,443	25.7
原発巣・非治癒切除	149	1.6	46	1.1	195	1.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	114	1.2	33	0.8	147	1.1
無	6,378	69.3	3,241	77.1	9,619	71.8
発見経緯						
がん検診	69	0.8	16	0.4	85	0.6
健康診断・人間ドック	424	4.6	96	2.3	520	3.9
他疾患経過観察中	5,663	61.6	2,812	66.9	8,475	63.2
その他・不明	3,043	33.1	1,281	30.5	4,324	32.3

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を名含む

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3年生存率

2011年診断例の3年生存率を表3-4-2に示す。全体として、相対生存率は53.6%で、男性が53.5%、女性が53.9%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM 分類別にみると、I期では相対生存率は全体で76.4%、男性が77.3%、女性が74.7%である。観血的治療を受けたものの割合は約3割であるが、観血的治療を受けた者の相対生存率は77.7%であった。

表3-4-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	48.8	53.5	52.3	54.6	50.6	53.9	52.3	55.5	49.3	53.6	52.7	54.5
年齢												
0-14歳												
15-39歳	44.5	44.6	33.9	54.7	58.1	58.2	39.0	73.2	48.1	48.2	38.8	56.9
40歳代	56.7	57.1	50.6	63.1	60.4	60.7	44.9	73.2	57.3	57.7	51.7	63.2
50歳代	54.2	55.2	52.1	58.1	61.9	62.4	55.7	68.4	55.6	56.4	53.7	59.1
60歳代	52.4	54.5	52.6	56.4	54.7	55.7	52.4	58.9	53.0	54.8	53.1	56.5
70歳代	48.9	54.2	52.3	56.0	54.2	56.8	54.4	59.2	50.7	55.1	53.6	56.6
80歳以上	35.4	47.0	43.6	50.3	37.6	44.2	40.8	47.6	36.3	45.7	43.3	48.1
UICC TNM 総合ステージ												
I期	70.3	77.3	75.6	79.0	70.1	74.7	72.4	76.9	70.3	76.4	75.0	77.7
II期	59.1	64.6	62.5	66.7	55.6	59.1	56.0	62.0	58.0	62.8	61.1	64.5
III期	21.9	23.9	22.0	25.9	17.9	19.0	16.0	22.2	20.9	22.7	21.1	24.4
IV期	5.7	6.1	4.6	8.0	5.1	5.4	3.3	8.4	5.5	5.9	4.6	7.5
不詳	12.8	14.7	9.6	21.0	15.1	16.9	10.2	25.1	13.7	15.6	11.3	20.4
取り扱い規約治療前ステージ												
I期	74.7	81.3	78.9	83.5	76.2	80.6	77.7	83.2	75.3	81.0	79.2	82.7
II期	65.9	72.6	70.7	74.4	61.4	65.6	62.9	68.3	64.5	70.3	68.8	71.8
III期	40.9	44.8	42.5	47.1	36.8	39.4	35.8	43.0	39.8	43.3	41.4	45.3
IV期	10.4	11.3	9.8	12.8	8.4	8.9	6.8	11.4	9.9	10.7	9.5	12.0
不詳	29.9	33.4	27.0	40.0	27.2	29.5	21.7	37.7	28.9	32.0	27.0	37.1
観血的治療												
有	72.5	78.2	76.3	79.9	73.2	76.5	73.5	79.3	72.6	77.7	76.2	79.2
原発巣・治癒切除	75.2	81.1	79.2	82.9	76.2	79.7	76.6	82.5	75.4	80.7	79.2	82.3
原発巣・非治癒切除	34.1	36.6	28.5	44.9	38.5	40.3	25.7	54.7	35.1	37.5	30.4	44.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	61.4	66.3	56.0	75.2	41.2	42.8	25.2	59.5	56.9	61.0	52.0	69.1
無	38.2	42.3	41.0	43.6	43.8	47.0	45.1	48.9	40.1	43.9	42.8	45.0

5. 肺(C33-34)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	47,951	268	39,288	39,212	39,207	12	39,195

(1) 生存状況把握割合

対象者は、39,195 例で、そのうち 3 年以内に死亡していた者は、21,054 例、打ち切りが 724 例で、全体として生存状況把握割合は 98.2%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 70%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体として I 期が約

38%、次いでIV期が約 31%、III期が約 23%であった。観血的治療実施を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 44%であった。観血的治療有で、原発巣・治癒切除例が約 41%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 36%、健康診断・人間ドックが約 13%、がん検診が約 8%であった。組織形態でみると、小細胞癌が約 9%含まれていた。

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	27,136	100.0	12,059	100.0	39,195	100.0
年齢						
0-14 歳	-		-		-	
15-39 歳	150	0.6	117	1.0	267	0.7
40 歳代	638	2.4	389	3.2	1,027	2.6
50 歳代	2,490	9.2	1,295	10.7	3,785	9.7
60 歳代	8,738	32.2	3,834	31.8	12,572	32.1
70 歳代	10,189	37.5	4,260	35.3	14,449	36.9
80 歳以上	4,930	18.2	2,163	17.9	7,093	18.1
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	9,098	33.5	5,744	47.6	14,842	37.9
II 期	2,016	7.4	613	5.1	2,629	6.7
III 期	6,963	25.7	2,059	17.1	9,022	23.0
IV 期	8,553	31.5	3,413	28.3	11,966	30.5
不詳	390	1.4	138	1.1	528	1.3
空欄	116	0.4	92	0.8	208	0.5
観血的治療						
有	10,635	39.2	6,511	54.0	17,146	43.7
原発巣・治癒切除	9,855	36.3	6,163	51.1	16,018	40.9
原発巣・非治癒切除	472	1.7	196	1.6	668	1.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	308	1.1	152	1.3	460	1.2
無	16,501	60.8	5,548	46.0	22,049	56.3
発見経緯						
がん検診	1,793	6.6	1,227	10.2	3,020	7.7
健康診断・人間ドック	3,280	12.1	1,656	13.7	4,936	12.6
他疾患経過観察中	9,828	36.2	4,397	36.5	14,225	36.3
その他・不明	12,235	45.1	4,779	39.6	17,014	43.4
組織形態						
小細胞癌	2,921	10.8	542	4.5	3,463	8.8
非小細胞癌	24,215	89.2	11,517	95.5	35,732	91.2

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-5-2 に示す。全体での 3 年相対生存率は、49.4%、男性が 42.7%、女性が 64.0%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM 分類総合ステージの I 期の割合が多く、UICC TNM 分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体で I 期が 88.0%であるのに対し、II 期以降では 55%以下と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で 43%程度であるが、相対生存率は 86.6%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表 3-5-2 属性別 3 年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	38.9	42.7	42.1	43.3	61.1	64.0	63.1	64.9	45.7	49.4	48.8	49.9
年齢												
15-39 歳	45.2	45.4	37.1	53.2	65.9	66.0	56.5	73.9	54.3	54.4	48.2	60.3
40 歳代	51.6	52.0	47.9	55.8	67.9	68.2	63.2	72.6	57.8	58.1	55.0	61.1
50 歳代	48.4	49.2	47.2	51.2	70.8	71.4	68.8	73.8	56.1	56.8	55.2	58.4
60 歳代	43.7	45.5	44.4	46.6	66.8	67.9	66.3	69.4	50.8	52.4	51.5	53.3
70 歳代	38.6	42.8	41.7	43.8	62.2	65.1	63.6	66.6	45.5	49.5	48.6	50.4
80 歳以上	24.0	31.8	30.2	33.4	41.6	48.6	46.1	51.1	29.4	37.2	35.8	38.5
UICC TNM 総合ステージ*												
I 期	74.6	82.6	81.6	83.6	92.0	96.2	95.4	96.9	81.3	88.0	87.3	88.6
II 期	50.3	55.3	52.8	57.6	69.1	72.6	68.5	76.3	54.7	59.4	57.3	61.4
III 期	27.3	29.7	28.5	30.8	44.6	46.7	44.4	48.9	31.2	33.6	32.6	34.7
IV 期	8.2	8.8	8.2	9.5	18.2	19.0	17.7	20.4	11.0	11.8	11.2	12.4
不詳	11.3	13.7	10.2	17.8	22.2	25.3	17.7	33.7	14.0	16.7	13.3	20.5
観血的治療												
有	75.1	81.6	80.7	82.5	91.1	94.6	93.9	95.3	81.2	86.6	86.0	87.2
原発巣・治癒切除	77.2	83.9	83.0	84.8	92.1	95.7	94.9	96.3	82.9	88.5	87.9	89.1
原発巣・非治癒切除	38.9	42.0	37.2	46.8	67.6	70.2	62.8	76.5	47.4	50.5	46.4	54.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	62.9	68.2	62.0	73.8	80.6	84.2	76.6	90.0	68.7	73.5	68.7	77.9
無	15.2	17.0	16.3	17.6	25.5	27.0	25.8	28.3	17.8	19.5	19.0	20.1
組織形態												
小細胞癌	16.4	17.8	16.3	19.2	19.2	19.9	16.5	23.5	16.8	18.1	16.8	19.5
非小細胞癌	41.6	45.7	45.0	46.4	63.1	66.1	65.1	67.0	48.5	52.4	51.8	53.0

*癌腫のみ対象

6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	41,774	267	30,632	26,529	26,527	11	26,516

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、26,516 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 1,931 例、打ち切りが 560 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 97.9%であった。

(2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、50 歳代が 21.8%と最も多く、次いで 60 歳代が 25.9%、40 歳代が 21.3%であった。また、35 歳未満は、534 例であった(約 2.0%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く 43.6%、次いで II 期が 37.9%であった。観血的治療の実施割合は、約 90%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診、健康診断・人間ドックがやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	対象数	(%)
全体	26,516	100.0
年齢		
15-39 歳	1,783	6.7
40 歳代	5,637	21.3
50 歳代	5,776	21.8
60 歳代	6,858	25.9
70 歳代	4,351	16.4
80 歳以上	2,111	8.0
35 歳未満 (再掲)	534	2.0
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	11,550	43.6
II 期	10,045	37.9
III 期	3,200	12.1
IV 期	1,504	5.7
不詳	134	0.5
空欄	83	0.3
観血的治療		
有	23,701	89.4
原発巣・治癒切除	22,007	83.0
原発巣・非治癒切除	1,010	3.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	684	2.6
無	2,815	10.6
発見経緯		
がん検診	5,795	21.9
健康診断・人間ドック	1,342	5.1
他疾患経過観察中	3,317	12.5
その他・不明	16,062	60.6

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は 95.2%であり、どの年代においても相対生存率は 90%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 95%以上であるが、IV 期では 54.4%にとどまった。なお、観血的治療実施を受けた者では、治癒切除・非治癒切除に関わらず相対生存率は約 90%を超えていた。

表 3-6-2 属性別 3 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	92.6	95.2	94.9	95.5
年齢				
15-39 歳	94.0	94.2	93.0	95.2
40 歳代	96.6	97.0	96.5	97.4
50 歳代	93.9	94.6	94.0	95.2
60 歳代	93.1	94.6	93.9	95.2
70 歳代	90.7	94.7	93.7	95.6
80 歳以上	79.6	96.0	93.9	98.1
35 歳未満 (再掲)	91.7	91.8	89.1	93.9
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	97.7	100.0	100.0	100.0
II 期	95.5	98.0	97.6	98.4
III 期	85.4	88.3	86.9	89.5
IV 期	53.1	54.4	51.7	57.0
不詳	67.7	75.1	65.3	83.2
観血的治療				
有	96.1	98.5	98.2	98.8
原発巣・治癒切除	96.4	98.8	98.6	99.1
原発巣・非治癒切除	89.4	92.1	90.0	93.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	94.3	97.3	95.2	98.8
無	63.2	66.5	64.6	68.4

*癌腫のみ対象

7. 食道(C15)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2011	13,379	268	11,171	9,878	9,878	-	9,873

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、9,873例で、3年以内に亡くなっていた者が5,022例、打ち切りが225例であった。全体として生存状況把握割合は、97.7%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-7-1に示す。集計対象のうち男性が約86%、女性が約14%であった。年齢分布をみると、60歳代が約38%と最も多く、次いで70歳代が約34%、50歳代が約13%となっていた。UICC TNM分類総合ステージをみると、I期が最も多く約33%、次いでIII期が約25%、IV期が約21%、II期が約19%であった。観血的治療の実施割合は全体で約49%であり、その内約89%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約26%であった。

表3-7-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	8,470	100.0	1,403	100.0	9,873	100.0
年齢						
0-14歳	-		0		-	
15-39歳	16	0.2	-		23	0.2
40歳代	162	1.9	66	4.7	228	2.3
50歳代	1,083	12.8	199	14.2	1,282	13.0
60歳代	3,295	38.9	464	33.1	3,759	38.1
70歳代	2,922	34.5	414	29.5	3,336	33.8
80歳以上	991	11.7	253	18.0	1,244	12.6
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	2,826	33.4	400	28.5	3,226	32.7
II期	1,553	18.3	290	20.7	1,843	18.7
III期	2,084	24.6	381	27.2	2,465	25.0
IV期	1,801	21.3	272	19.4	2,073	21.0
不詳	150	1.8	37	2.6	187	1.9
空欄	56	0.7	23	1.6	79	0.8
観血的治療						
有	4,143	48.9	687	49.0	4,830	48.9
原発巣・治癒切除	3,648	43.1	629	44.8	4,277	43.3
原発巣・非治癒切除	340	4.0	39	2.8	379	3.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	155	1.8	19	1.4	174	1.8
無	4,327	51.1	716	51.0	5,043	51.1
発見経緯						
がん検診	362	4.3	55	3.9	417	4.2
健康診断・人間ドック	713	8.4	66	4.7	779	7.9
他疾患経過観察中	2,265	26.7	277	19.7	2,542	25.7
その他・不明	5,130	60.6	1,005	71.6	6,135	62.1

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3年生存率

2011年診断例の3年生存率を表3-7-2に示す。全体での相対生存率は、52.0%であり、男性が51.2%、女性が56.8%であった。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、3年相対生存率はI期が約88%、II期が約59%、III期が約32%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約76%であり、その内原発巣・治癒切除例の相対生存率は約80%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM分類総合ステージ別、年齢別に見ても男性より女性でやや相対生存率が高い傾向が認められた。

表3-7-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	47.4	51.2	50.1	52.4	54.4	56.8	54.0	59.5	48.4	52.0	51.0	53.1
年齢												
40歳代	49.1	49.5	41.4	57.0	57.1	57.3	44.4	68.3	51.4	51.7	45.0	58.1
50歳代	52.0	52.9	49.8	55.9	59.5	59.9	52.6	66.5	53.1	54.0	51.1	56.7
60歳代	52.1	54.2	52.4	56.0	59.4	60.3	55.6	64.7	53.0	55.0	53.3	56.6
70歳代	46.5	51.2	49.2	53.2	61.0	63.8	58.6	68.6	48.3	52.8	50.9	54.6
80歳以上	29.2	38.5	34.8	42.3	29.4	35.0	28.4	41.8	29.3	37.8	34.5	41.1
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	80.9	87.5	85.8	89.0	89.0	92.7	89.0	95.5	81.9	88.1	86.7	89.5
II期	53.1	57.8	55.0	60.5	63.8	67.1	60.9	72.6	54.8	59.3	56.8	61.7
III期	28.1	30.2	28.1	32.3	39.4	41.0	35.9	46.1	29.9	31.9	30.0	33.9
IV期	14.2	15.2	13.5	17.0	19.2	19.9	15.2	25.1	14.9	15.8	14.2	17.5
不詳	20.6	23.1	16.1	30.9	14.2	16.0	5.9	31.0	19.3	21.7	15.6	28.5
観血的治療												
有	70.7	75.5	74.0	77.0	79.2	81.7	78.4	84.7	71.9	76.4	75.1	77.8
原発巣・治癒切除	74.0	79.0	77.5	80.5	81.5	84.1	80.7	87.0	75.1	79.8	78.4	81.1
原発巣・非治癒切除	40.3	43.3	37.6	48.9	53.0	54.8	37.4	69.6	41.6	44.5	39.1	49.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	59.8	63.9	55.1	71.6	-	-			59.6	63.3	55.1	70.7
無	24.9	27.4	26.0	28.8	30.1	32.1	28.5	35.7	25.7	28.1	26.7	29.4

*癌腫が対象

8. 膵臓(C25)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2011	12,947	268	10,183	10,026	10,022	-	10,020

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、10,020例で、3年以内に亡くなっていた者が8,500例、打ち切りが168例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は98.3%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-8-1に示す。集計対象者は、男性が約55%、女性が約45%で、全体で10,020例であった。診断時の年齢分布は、70歳代が約35%と最も多く、次いで60歳代が約30%、80歳以上が約20%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、IV期が最も多く約47%、次いでII期が約25%、III期が約18%であった。観血的治療の実施割合は、約29%で男女による差はなかった。観血的治療を受けた者の内、約80%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約29%であった。

表3-8-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,528	100.0	4,492	100.0	10,020	100.0
年齢						
0-14歳	0	0.0	-	-	-	-
15-39歳	46	0.8	41	0.9	87	0.9
40歳代	206	3.7	112	2.5	318	3.2
50歳代	663	12.0	428	9.5	1,091	10.9
60歳代	1,775	32.1	1,250	27.8	3,025	30.2
70歳代	2,008	36.3	1,536	34.2	3,544	35.4
80歳以上	830	15.0	1,124	25.0	1,954	19.5
UICC TNM分類総合ステージ*						
I期	326	5.9	283	6.3	609	6.1
II期	1,435	26.0	1,111	24.7	2,546	25.4
III期	942	17.0	829	18.5	1,771	17.7
IV期	2,637	47.7	2,098	46.7	4,735	47.3
不詳	145	2.6	137	3.0	282	2.8
空欄	43	0.8	34	0.8	77	0.8
観血的治療						
有	1,643	29.7	1,237	27.5	2,880	28.7
原発巣・治癒切除	1,300	23.5	992	22.1	2,292	22.9
原発巣・非治癒切除	257	4.6	186	4.1	443	4.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	86	1.6	59	1.3	145	1.4
無	3,885	70.3	3,255	72.5	7,140	71.3
発見経緯						
がん検診	31	0.6	28	0.6	59	0.6
健康診断・人間ドック	243	4.4	146	3.3	389	3.9
他疾患経過観察中	1,691	30.6	1,208	26.9	2,899	28.9
その他・不明	3,563	64.5	3,110	69.2	6,673	66.6

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3年生存率

2011年診断例の3年生存率を表3-8-2に示す。3年相対生存率は、全体で約15%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後があまり良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほど同程度であった。但し、40歳代では対象者数がやや少なく95%信頼区間の幅が広がっている点に留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、相対生存率はI期が約55%、II期が約29%、III期が約12%、IV期が約3%であった。観血治療を受けた者の相対生存率は約42%であり、その内原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は約47%にとどまった。

表3-8-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	13.8	15.0	14.0	16.0	14.4	15.2	14.1	16.3	14.1	15.1	14.3	15.8
年齢												
15-39歳	28.9	29.0	16.3	42.9	56.1	56.2	39.8	69.8	42.2	42.3	31.7	52.6
40歳代	20.5	20.7	15.4	26.5	23.8	23.9	16.4	32.1	21.7	21.8	17.4	26.5
50歳代	16.5	16.8	14.0	19.8	15.2	15.3	12.0	19.0	16.0	16.2	14.1	18.5
60歳代	16.2	16.8	15.1	18.7	18.8	19.1	17.0	21.4	17.3	17.8	16.4	19.2
70歳代	13.0	14.3	12.7	16.0	13.8	14.5	12.7	16.4	13.3	14.4	13.2	15.6
80歳以上	6.4	8.4	6.4	10.9	7.2	8.6	6.9	10.6	6.9	8.5	7.2	10.0
UICC TNM分類総合ステージ												
I期	50.8	55.5	49.4	61.3	50.4	54.0	47.6	60.2	50.6	54.8	50.4	59.1
II期	26.3	28.5	26.1	31.0	29.0	30.6	27.8	33.4	27.5	29.4	27.6	31.3
III期	11.8	12.7	10.6	15.1	10.2	10.7	8.6	13.0	11.0	11.8	10.2	13.4
IV期	2.4	2.5	2.0	3.2	2.5	2.6	2.0	3.4	2.4	2.6	2.1	3.1
不詳	11.7	13.4	8.0	20.4	13.4	15.1	9.3	22.3	12.5	14.2	10.1	19.1
観血的治療												
有	38.0	40.7	38.2	43.3	42.6	44.2	41.3	47.1	39.9	42.3	40.4	44.2
原発巣・治癒切除	42.5	45.6	42.7	48.5	46.9	48.7	45.4	51.9	44.4	46.9	44.8	49.1
原発巣・非治癒切除	17.8	19.1	14.4	24.5	18.4	19.2	13.7	25.5	18.0	19.2	15.5	23.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	29.1	31.6	21.6	42.2	45.6	47.5	34.0	60.1	35.8	38.2	29.9	46.5
無	3.4	3.8	3.2	4.4	3.4	3.7	3.0	4.4	3.4	3.7	3.3	4.2

*癌腫が対象

9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	15,994	251	13,644	5,384	5,384	-	5,377

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、5,377 例で、3 年以内に亡くなっていた者は 1,213 例、打ち切りが 164 例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は 96.9%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-9-1 に示す。診断時の年齢を見ると、40 歳代、15~39 歳と比較的若い年代が多かった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 46%と最も多く、次いで III 期が約 23%、II 期が約 16%であった。観血的治療の実施割合は約 57%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 16%、健康診断・人間ドックが約 3%であった。

表 3-9-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	5,377	100.0
年齢		
15-39 歳	1,148	21.4
40 歳代	1,217	22.6
50 歳代	913	17.0
60 歳代	983	18.3
70 歳代	674	12.5
80 歳以上	441	8.2
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	2,398	44.6
II 期	862	16.0
III 期	1,241	23.1
IV 期	754	14.0
不詳	83	1.5
空欄	39	0.7
観血的治療		
有	3,083	57.3
原発巣・治癒切除	2,745	51.1
原発巣・非治癒切除	212	3.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	126	2.3
無	2,294	42.7
発見経緯		
がん検診	859	16.0
健康診断・人間ドック	173	3.2
他疾患経過観察中	553	10.3
その他・不明	3,792	70.5

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-9-2 に示す。全体として、実測生存率が約 77%、相対生存率が約 79%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I 期が約 96%、II 期が約 87%、III 期が約 71%、IV 期が約 30%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約 93%であり、その内、原発巣・治癒切除例では約 94%であった。

表 3-9-2 属性別 3 年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	77.1	78.8	77.6	80.0
年齢				
15-39 歳	90.2	90.3	88.4	91.9
40 歳代	84.7	85.0	82.8	86.9
50 歳代	78.6	79.2	76.4	81.8
60 歳代	74.8	76.0	73.1	78.6
70 歳代	65.0	67.9	64.0	71.6
80 歳以上	41.8	50.9	45.1	56.5
UICC TNM 分類総合ステージ*				
I 期	94.6	96.0	95.0	96.8
II 期	83.6	86.5	83.8	88.9
III 期	68.6	70.5	67.7	73.1
IV 期	29.2	30.1	26.8	33.5
不詳	72.4	76.6	64.7	85.5
観血的治療				
有	91.8	92.5	91.5	93.5
原発巣・治癒切除	93.3	94.1	93.1	95.0
原発巣・非治癒切除	74.0	74.9	68.2	80.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	86.8	87.9	80.3	92.8
無	57.1	59.8	57.7	62.0

*癌腫のみ対象

10. 子宮体部(C54)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	7,467	250	6,344	6,311	6,310	-	6,309

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、6,309 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 1,022 例、打ち切りが 101 例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は 98.4%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-10-1 に示す。診断時の年齢を見ると、50 歳代が 3 割以上と最も多く、次いで 60 歳代が約 28%、70 歳代が約 16%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 59%、II 期が約 8%、III 期が約 15%、IV 期が約 8%であった。観血的治療の実施割合は、約 91%であり、その内の約 89%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 15%であった。

表 3-10-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	6,309	100.0
年齢		
15-39 歳	350	5.5
40 歳代	876	13.9
50 歳代	1,931	30.6
60 歳代	1,740	27.6
70 歳代	1,031	16.3
80 歳以上	381	6.0
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	3,727	59.1
II 期	482	7.6
III 期	972	15.4
IV 期	480	7.6
不詳	77	1.2
空欄	571	9.1
観血的治療		
有	5,747	91.1
原発巣・治癒切除	5,127	81.3
原発巣・非治癒切除	293	4.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	327	5.2
無	562	8.9
発見経緯		
がん検診	429	6.8
健康診断・人間ドック	113	1.8
他疾患経過観察中	940	14.9
その他・不明	4,827	76.5

*癌腫のみ対象（子宮内膜）、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-10-2 に示す。全体での 3 年実測生存率は約 84%、相対生存率が約 86%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が約 98%、II 期が約 94%、III 期が約 81%、IV 期が約 29%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約 91%であり、その内原発巣・治癒切除例では 93%を超えていた。

表 3-10-2 属性別 3 年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	83.7	85.5	84.6	86.5
年齢				
15-39 歳	90.4	90.5	86.9	93.2
40 歳代	91.1	91.4	89.3	93.2
50 歳代	87.1	87.8	86.2	89.2
60 歳代	84.6	85.9	84.1	87.6
70 歳代	77.7	81.2	78.4	83.7
80 歳以上	55.0	64.4	58.3	70.1
UICC TNM 分類総合ステージ*				
I 期	96.1	98.2	97.5	98.8
II 期	91.8	94.2	91.2	96.3
III 期	79.9	81.4	78.7	83.9
IV 期	28.7	29.4	25.3	33.6
不詳	54.4	57.4	44.7	68.4
観血的治療				
有	89.0	90.8	89.9	91.6
原発巣・治癒切除	92.0	93.8	93.0	94.5
原発巣・非治癒切除	44.7	45.8	39.9	51.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	81.5	83.5	78.7	87.4
無	28.5	30.1	26.2	34.2

*癌腫のみ対象（子宮内膜）

11. 前立腺(C61)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2011	33,410	265	25,801	25,790	25,788	-	25,780

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、25,780 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 2,612 例、打ち切りが 566 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 97.8%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-11-1 に示す。診断時の年齢は、70 歳代が約 45%、80 歳以上が約 15%で、70 歳以上が半数以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、II 期が最も多く約 68%であった。観血的治療の実施割合は、約 30%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 19%、健康診断・人間ドックが約 11%であった。

表 3-11-1 対象者の属性

	全体	
	症例数	(%)
全体	25,780	100.0
年齢		
15-39 歳	-	0.0
40 歳代	81	0.3
50 歳代	1,611	6.2
60 歳代	8,772	34.0
70 歳代	11,516	44.7
80 歳以上	3,797	14.7
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	481	1.9
II 期	17,646	68.4
III 期	3,535	13.7
IV 期	3,588	13.9
不詳	418	1.6
空欄	112	0.4
観血的治療		
有	7,597	29.5
原発巣・治癒切除	6,340	24.6
原発巣・非治癒切除	910	3.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	347	1.3
無	18,183	70.5
発見経緯		
がん検診	4,906	19.0
健康診断・人間ドック	2,777	10.8
他疾患経過観察中	9,079	35.2
その他・不明	9,018	35.0

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

2011 年診断例の 3 年生存率を表 3-11-2 に示す。全体として、3 年実測生存率は、約 90%、相対生存率が約 99%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡させている例が多いと考えられた。3 年相対生存率は、どの年代もほど 80%以上と高い。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期から III 期では、相対生存率は 100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらずほぼ 100%であった。

表 3-11-2 属性別 3 年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	89.7	99.0	98.6	99.4
年齢				
15-39 歳				
40 歳代	82.2	82.9	72.4	89.7
50 歳代	95.5	97.2	96.1	98.2
60 歳代	95.5	99.4	99.0	99.9
70 歳代	90.9	100.0	99.6	100.0
80 歳以上	70.9	94.8	92.8	96.7
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	93.1	100.0	99.7	100.0
II 期	94.8	100.0	100.0	100.0
III 期	92.9	100.0	100.0	100.0
IV 期	63.6	72.6	70.8	74.4
不詳	73.4	90.7	85.0	95.6
観血的治療				
有	97.2	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	97.6	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切除	96.2	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	93.8	99.9	96.6	100.0
無	86.6	97.3	96.8	97.9

*癌腫のみ対象

12. 膀胱(C67)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0～99 歳	除外	集計対象
2011	12,938	261	10,900	6,125	6,122	-	6,112

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、6,112 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 2,113 例、打ち切りが 133 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.8%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-12-1 に示す。性別で見ると、男性が約 77%、女性が約 23%であった。診断時の年齢分布をみると、70 歳代が最も多く約 35%、80 歳以上が約 31%、60 歳代が約 25%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 55%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、約 86%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 24%であった。

表 3-12-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	4,736	100.0	1,376	100.0	6,112	100.0
年齢						
0-14 歳	0	0.0	-	-	-	-
15-39 歳	26	0.5	12	0.9	38	0.6
40 歳代	82	1.7	21	1.5	103	1.7
50 歳代	378	8.0	88	6.4	466	7.6
60 歳代	1,250	26.4	249	18.1	1,499	24.5
70 歳代	1,680	35.5	428	31.1	2,108	34.5
80 歳以上	1,320	27.9	576	41.9	1,896	31.0
UICC TNM 分類総合ステージ*						
I 期	2,731	57.7	646	46.9	3,377	55.3
II 期	862	18.2	294	21.4	1,156	18.9
III 期	406	8.6	148	10.8	554	9.1
IV 期	580	12.2	216	15.7	796	13.0
不詳	121	2.6	62	4.5	183	3.0
空欄	36	0.8	10	0.7	46	0.8
観血的治療						
有	4,148	87.6	1,128	82.0	5,276	86.3
原発巣・治癒切除	3,238	68.4	829	73.5	4,067	66.5
原発巣・非治癒切除	491	10.4	189	16.8	680	11.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	419	8.8	110	9.8	529	8.7
無	588	12.4	248	18.0	836	13.7
発見経緯						
がん検診	30	0.6	-	-	36	0.6
健康診断・人間ドック	143	3.0	27	2.0	170	2.8
他疾患経過観察中	1,173	24.8	313	22.7	1,486	24.3
その他・不明	3,390	71.6	1,030	74.9	4,420	72.3

*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3年生存率

2011年診断例の3年生存率を表3-12-2に示す。全体の3年実測生存率は約65%、相対生存率が約74%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては70歳代まで70%以上であるが、80歳以上では約63%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約92%、II期が約65%、III期が約55%、IV期が約26%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約81%で、その内原発巣・治癒切除例では約86%であった。

表3-12-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	67.5	76.8	75.2	78.3	56.4	62.3	59.3	65.1	65.0	73.5	72.1	74.8
年齢												
15-39歳	-	-			-	-			80.3	80.5	63.1	90.3
40歳代	81.6	82.2	71.8	89.1	-	-			84.4	84.9	76.3	90.7
50歳代	81.6	83.0	78.6	86.7	70.5	71.0	60.2	79.4	79.5	80.7	76.7	84.2
60歳代	79.2	82.4	79.9	84.6	74.2	75.5	69.4	80.5	78.3	81.2	78.9	83.3
70歳代	69.1	76.6	74.1	79.0	60.6	63.6	58.5	68.2	67.3	73.9	71.6	76.0
80歳以上	49.4	68.2	64.4	71.9	41.3	51.6	46.5	56.7	46.9	63.0	60.0	66.1
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	82.5	93.7	92.0	95.3	77.4	85.8	81.9	89.2	81.5	92.2	90.6	93.6
II期	61.0	69.8	65.9	73.4	46.4	51.9	45.4	58.1	57.3	65.2	61.8	68.4
III期	48.8	55.3	49.7	60.8	48.9	52.6	43.6	61.0	48.8	54.6	49.8	59.2
IV期	25.2	28.0	24.1	32.0	19.5	20.7	15.4	26.6	23.7	26.0	22.8	29.3
不詳	43.4	52.0	41.2	62.3	27.4	32.3	19.9	46.0	38.0	45.4	37.0	53.8
観血的治療												
有	73.9	83.5	82.0	85.0	65.1	71.5	68.4	74.5	72.0	80.9	79.5	82.3
原発巣・治癒切除	77.4	87.3	85.6	88.9	73.1	79.9	76.4	83.1	76.5	85.8	84.2	87.2
原発巣・非治癒切除	52.6	60.0	54.8	64.9	34.7	39.3	31.7	47.0	47.6	54.2	49.8	58.4
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	71.3	81.9	76.6	86.6	57.1	63.5	52.6	73.2	68.3	78.0	73.3	82.4
無	22.9	27.4	23.4	31.6	16.1	18.3	13.3	23.9	20.9	24.7	21.5	28.1

*癌腫のみ対象

付表一覧

1.集計対象施設一覧

付表1 集計対象施設について

都道府県	施設名称
北海道	独)国立病院機構北海道がんセンター JA北海道厚生連旭川厚生病院 王子総合病院 JA北海道厚生連帯広厚生病院 北見赤十字病院 社会医療法人母恋 日鋼記念病院 函館厚生院 函館五稜郭病院 医療法人手稲溪仁会病院 独立行政法人労働者健康安全機構釧路労災病院
青森県	青森県立中央病院 八戸市立市民病院
岩手県	岩手医科大学附属病院 岩手県立中央病院 岩手県立二戸病院 岩手県立中部病院 岩手県立胆沢病院 岩手県立久慈病院 岩手県立釜石病院
宮城県	東北大学病院 宮城県立がんセンター 石巻赤十字病院 独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 大崎市民病院 独立行政法人労働者健康安全機構東北労災病院
秋田県	秋田大学医学部附属病院 大曲厚生医療センター 秋田県厚生連平鹿総合病院 秋田赤十字病院 大館市立総合病院 秋田県厚生農業協同組合連合会秋田厚生医療センター JA秋田厚生連 由利組合総合病院
山形県	山形大学医学部附属病院 山形市立病院済生館 置賜広域病院組合 公立置賜総合病院 日本海総合病院
福島県	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院 竹田総合病院 一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院 一般財団法人温知会 会津中央病院
茨城県	茨城県立中央病院 筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター 茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院 土浦協同病院・茨城県地域がんセンター 友愛記念病院 茨城県厚生農業協同組合連合会茨城西南医療センター病院 筑波大学附属病院 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
栃木県	地方独立行政法人栃木県立がんセンター 自治医科大学附属病院 栃木県済生会宇都宮病院 獨協医科大学病院 那須赤十字病院
群馬県	群馬県立がんセンター 国立病院機構沼田病院 独立行政法人国立病院機構渋川医療センター 独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター

都道府県	施設名称
	公立富岡総合病院 桐生厚生総合病院 前橋赤十字病院
埼玉県	埼玉県立がんセンター 春日部市立医療センター 埼玉医科大学総合医療センター 獨協医科大学越谷病院 川口市立医療センター 社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院
千葉県	国立がん研究センター東病院 国保旭中央病院 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 国保直営総合病院 君津中央病院 独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院 船橋市立医療センター 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター 東京歯科大学市川総合病院 順天堂大学医学部附属浦安病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院 国保松戸市立病院 日本医科大学千葉北総病院
東京都	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 東京都立駒込病院 がん研有明病院 青梅市立総合病院 NTT東日本関東病院 日本赤十字社医療センター 日本大学医学部附属板橋病院 武蔵野赤十字病院 日本医科大学付属病院 聖路加国際病院 帝京大学医学部附属病院 杏林大学医学部付属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 昭和大学病院 慶應義塾大学病院 東京都立多摩総合医療センター 公立昭和病院 虎の門病院 東京医科歯科大学医学部附属病院
神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター 国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院 横浜市立市民病院 相模原協同病院 公立大学横浜市立大学附属病院 聖マリアンナ医科大学病院 東海大学医学部付属病院 北里大学病院
新潟県	新潟県立がんセンター新潟病院 新潟県立中央病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院 新潟大学医歯学総合病院 県立新発田病院 独立行政法人労働者健康安全機構新潟労災病院

都道府県	施設名称
富山県	富山県立中央病院 黒部市民病院 富山大学附属病院 富山県厚生連高岡病院 高岡市民病院 市立砺波総合病院
石川県	金沢医科大学病院 小松市民病院
福井県	福井県立病院 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院 福井赤十字病院 福井大学医学部附属病院
山梨県	山梨大学医学部附属病院
長野県	国立大学法人 信州大学医学部附属病院 長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター 諏訪赤十字病院 飯田市立病院 長野市民病院 長野赤十字病院 社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 伊那中央病院
岐阜県	高山赤十字病院 岐阜県立多治見病院 大垣市民病院 社会医療法人厚生会 木沢記念病院
静岡県	静岡県立静岡がんセンター 社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院聖隷三方原病院 社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院 順天堂大学医学部附属静岡病院 静岡市立静岡病院 藤枝市立総合病院 浜松医科大学医学部附属病院 浜松医療センター 磐田市立総合病院
愛知県	愛知県がんセンター中央病院 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 海南病院 国立病院機構 名古屋医療センター 小牧市民病院 豊橋市民病院 一宮市立市民病院 公立陶生病院 愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院 名古屋第一赤十字病院 名古屋第二赤十字病院 藤田保健衛生大学病院
滋賀県	滋賀県立成人病センター 市立長浜病院 彦根市立病院 滋賀医科大学医学部附属病院
京都府	京都市立病院 京都第一赤十字病院 京都第二赤十字病院 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 市立福知山市民病院 社会医療法人岡本病院(財団)京都岡本記念病院

都道府県	施設名称
大阪府	大阪府立成人病センター 市立岸和田市民病院 東大阪市立総合病院 市立豊中病院 大阪赤十字病院 八尾市立病院
兵庫県	兵庫県立がんセンター 国立大学法人 神戸大学医学部附属病院 神戸市立医療センター中央市民病院 独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院 公立学校共済組合近畿中央病院 赤穂市民病院 公立豊岡病院組合立豊岡病院 兵庫県立淡路医療センター 兵庫医科大学病院 兵庫県立柏原病院
奈良県	奈良県立医科大学附属病院 奈良県総合医療センター 天理よろづ相談所病院
和歌山県	紀南病院 日本赤十字社和歌山医療センター
鳥取県	鳥取大学医学部附属病院 鳥取県立厚生病院 独立行政法人国立病院機構米子医療センター 鳥取県立中央病院
島根県	島根大学医学部附属病院 松江赤十字病院 島根県立中央病院 浜田医療センター
岡山県	岡山大学病院 岡山済生会総合病院 総合病院岡山赤十字病院 公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 岡山医療センター
広島県	県立広島病院 広島赤十字・原爆病院 呉医療センター 独立行政法人国立病院機構東広島医療センター 福山市民病院
山口県	山口県立総合医療センター 独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター 山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院 独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院
徳島県	徳島大学病院 徳島県立中央病院
香川県	国立大学法人 香川大学医学部附属病院 香川県立中央病院 独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院 三豊総合病院 高松赤十字病院
愛媛県	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 市立宇和島病院 住友別子病院 愛媛大学医学部附属病院 愛媛県立中央病院 松山赤十字病院

都道府県	施設名称
高知県	国立大学法人 高知大学医学部附属病院 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
福岡県	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 国立大学法人 九州大学病院 久留米大学病院 公立八女総合病院 地方独立行政法人 大牟田市立病院 社会保険田川病院 飯塚病院 福岡東医療センター 北九州市立医療センター 独立行政法人国立病院機構九州医療センター 福岡県済生会福岡総合病院 福岡大学病院 聖マリア病院 独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 産業医科大学病院
佐賀県	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院 地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 唐津赤十字病院 独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
長崎県	国立大学法人 長崎大学病院 日本赤十字社長崎原爆病院 長崎県島原病院
熊本県	熊本大学医学部附属病院 熊本市立熊本市民病院 独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院 人吉医療センター 熊本赤十字病院 国立病院機構 熊本医療センター
大分県	大分大学医学部附属病院 大分県立病院 大分赤十字病院 独立行政法人国立病院機構別府医療センター 大分県済生会日田病院 中津市立中津市民病院
宮崎県	国立大学法人宮崎大学医学部附属病院 宮崎県立宮崎病院 国立病院機構 都城医療センター
鹿児島県	国立病院機構鹿児島医療センター 独立行政法人国立病院機構南九州病院 県民健康プラザ 鹿屋医療センター
沖縄県	国立大学法人琉球大学医学部附属病院 地方独立行政法人 那覇市立病院

がん診療連携拠点病院院内がん登録
2011年3年生存率集計 報告書

2018年9月 第1刷発行
(非売品)

編集 東尚弘 奥山絢子
(解析) (奥山絢子 神谷諭)
発行 国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策情報センター がん登録センター
院内がん登録分析室
〒104-0045 東京都中央区築地五丁目1番1号
電話 03-3542-2511